

口腔病理学

講 師	藤 田 修 一	実施時期 単 位 数	第 1 学年後期 1 単位 (20 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	将来、歯科衛生士として臨床現場でみることになる口腔領域の疾病を学ぶ。様々な疾患の病理学的特徴を理解することは、治療や予防に必要である。「病理学」で学んだ基本的病理学的変化をもとにして深い知識を習得する。				
授 業 概 要	病理学で解説した基本的な疾患の知識をもとにして、口腔領域の様々な疾患を個別に講義する。講義内容は教科書Part II 口腔病理学の範囲である。ここでは歯科医院などの臨床現場で遭遇する様々な疾患を解説する。病変の原因や成り立ちを理解することは、臨床分野で履修するであろう予防や治療法の理解に必須である。口腔病変の肉眼像や組織像(顕微鏡像)を供覧しながら講義を進める。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	定期試験 100%				
教 科 書	田中昭男 他編 新・歯科衛生士教育マニュアル「病理学」 クインテッセンス出版				
履修上の注意	将来の医療業務と直接関係する疾患がテーマとなるので興味を持って授業に臨んでほしい。また、不明な点は授業中または授業終了後に質問してください。				
参 考 書	下野 正基 他編 「新口腔病理学」第3版 医歯薬出版				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	歯の発育異常	① 歯の発育異常の種類を列挙できる。 ② 歯の大きさ、形、数、構造、色、萌出時期、位置、咬合の異常について説明できる。
2	歯の機械的損傷、 歯の化学的損傷、 歯の沈着物と着色	① 歯の機械的損傷と化学的損傷の違いを説明できる。 ② 咬耗、アブフラクション、摩耗について説明できる。 ③ 歯の破折、脱臼について説明できる。 ④ 酸蝕症を説明できる。 ⑤ 歯垢(プラーク)について説明できる。 ⑥ 歯石について説明できる。
3	う蝕 I	① う蝕の発生機序について説明できる。 ② う蝕を分類できる。 ③ エナメル質う蝕(初期う蝕と実質欠損う蝕)を説明できる。 ④ 象牙質う蝕を説明できる。
4	う蝕Ⅱ、 象牙質・セメント質 の増生、 歯髄の病変	① セメント質う蝕を説明できる。 ② 第二象牙質、第三象牙質、象牙質粒を説明できる。 ③ セメント質増生、セメント質粒を説明できる。 ④ 歯髄の循環障害、代謝障害(退行性病変)を説明できる。 ⑤ 歯髄炎を分類できる。 ⑥ 歯髄炎の臨床的および病理組織学的特徴を説明できる。
5	根尖部歯周組織 の病変	① 根尖部歯周組織の病変の原因を説明できる。 ② 根尖部歯周組織の病変の分類ができる。 ③ 根尖部歯周組織病巣の隣接組織への波及を説明できる。 ④ 根尖性歯周炎の臨床的および病理組織学的所見を説明できる。
6	(辺縁部)歯周組織 の病変、 口腔の創傷治癒	① 歯周組織について説明できる。 ② 歯周病の分類ができる。 ③ 歯肉炎・歯周炎の原因を説明できる。 ④ 歯肉炎と歯周炎の違いを説明できる。 ⑤ 歯肉炎・歯周炎の臨床的および病理組織学的所見を説明できる。 ⑥ 咬合性外傷について説明できる。 ⑦ 抜歯創の治癒過程を説明できる。 ⑧ ドライソケットを説明できる。
7	口腔粘膜の病変、 エプーリス	① 口腔粘膜の色素沈着を説明できる。 ② 白板症を説明できる。 ③ 扁平苔癬の臨床的・病理学的特徴を説明できる。 ④ 免疫異常による口腔粘膜の疾患を説明できる。 ⑤ ウイルス感染、真菌感染、放線菌感染による口腔粘膜疾患を説明できる。 ⑥ エプーリスの定義を述べることができる。 ⑦ エプーリスを病理組織学的に分類できる。
8	口腔領域の奇形、 顎骨の病変	① 口唇裂、口蓋裂、唇顎口蓋裂の発生機序と症状を説明できる。 ② 顎骨骨髓炎の原因を説明できる。 ③ 急性骨髓炎、慢性骨髓炎の症状および病理学的特徴を説明できる。 ④ 歯性上顎洞炎について説明できる。
9	口腔領域の嚢胞、 歯原性腫瘍	① 嚢胞の定義を述べることができる。 ② 歯原性嚢胞を分類し、臨床的および病理組織学的特徴を説明できる。 ③ 非歯原性嚢胞を分類し、臨床的および病理組織学的特徴を説明できる。 ④ 歯原性腫瘍を説明し、分類できる。 ⑤ エナメル上皮腫、歯牙腫の臨床的および病理組織学的特徴を説明できる。
10	非歯原性腫瘍、 唾液腺の疾患	① 口腔領域の非歯原性腫瘍を概説できる。 ② 非歯原性良性腫瘍を列挙し、臨床的および病理組織学的特徴を説明できる。 ③ 前癌病変と上皮異形成を説明できる。 ④ 非歯原性悪性腫瘍を列挙し、臨床的および病理組織学的特徴を説明できる。 ⑤ 唾液腺の疾患を概説できる。 ⑥ 唾石症、唾液腺炎、シェーグレン症候群、多形腺腫の臨床的および病理組織学的特徴を説明できる。